

1945年、夏・・・東京から疎開してきた文子、綾、かなえ、真理子の4人は寄宿学校で今日もお留守番。ある日、一機の飛行機が不時着する。そこに乗っていたのは特攻隊員の青年だった。そこから女学生と青年たちのふしぎな共同生活が始まる。「終戦の夏」を過去のものにしてしまわないため、そしてすべての「蛹」たちに送る、ひと夏の眩しい体験。

総合劇集団

俳優館

わたしの昆虫記

幼い虫たちと赤とんぼのおはなし

My Insect Diary

作・演出◎右来左往

出演◎みやちともこ
谷口真規
鈴木かえり
水原あきほ
丹羽智則
山内庸平

音響◎ノノヤママナコ
照明◎福井孝子
写真◎服部義康

——泣き虫、弱虫、いじけ虫、かんしゃく虫。
こころの中の虫たちも、きれいな蝶にかわるでしょうか？



「大人になりたいくない。社会に出たくない」と思ったことはありますか？それは”モラトリアム”と言って、いわば”蛹（さなぎ）”の状態です。いま、皆さんの周りにそう思い、硬い硬い殻に閉じこもっている子どもたちがいるかもしれません。しかし、それは大人になるためには必要なことであり、恥ずかしいことはありません。そして、意外なきっかけできれいな蝶へと羽化していきます。この作品はそんな無限の可能性を持つ蛹たちに今の自分を愛し、楽しく生きる方法を教えてくれる作品です。

《アンケートより抜粋》

- ・目の前にある「今」を大切に生きること。改めて心するような時間でした。
- ・生きること。死ぬということ。貫かれている明るさが印象的でした。
- ・何も知らない虫たちがどうして？と考える。まさに私たち。やっぱり考えなきゃ。



上演の
お問い合わせ

『わたしの昆虫記』上演実行委員会 TEL◎090-7020-1535(平松)

Email◎kocyou-9.2-mik@docomo.ne.jp HP◎hiyoucantk.wixsite.com/hi-you-can